<ul> <li>◆キャンパスの顔、豊田講堂と古川図書館</li> <li>◆キャンパスの顔、豊田講堂と古川図書館</li> </ul>
総合資料館、以後本書では古川図書館と呼ぶ)です。本書では、
である二つの建物を取り上げます。
田講堂」あるいは「古川図書館」という名称は、
業(株)、そして古川為三郎・志ま両氏からの寄付による建物であることに由来します。
付建物を見直すことは、次のようなことを考えるきっかけとなります。まず、大学と社会との
関係についてです。国立大学は政府により設置された学校です。しかし、国立大学といえども
社会との緊密な関係に支えられながら発展してきた歴史があり、大学が寄付建物を有するとい
うことは、それをよくあらわす事実です。

はじめに

2

はじめに

•3



豊田講堂と古川図書館

す。	いでいけばよいのかを考えたいと思いま	今後大学として、遺産をどのように引き継	屋大学にとってどう価値づけられるのか、	きます。そして、これら二棟の建築が名古	設計者の考え方にまで踏み込んで探ってい	館の建築デザイン上の特徴を、それぞれの	そこでこの本では、豊田講堂と古川図書	な影響を与えています。	ひいては大学の雰囲気そのものにまで大き	ンパスの他の建物、キャンパス全体の印象	うした寄付建物のデザイン的特徴が、た	の注がれているものが多くみられます。こ	また寄付建物には、建築のデザインに力
	思	引	Ő	が	っ	ぞ	Л		で	の		す	$\dot{\mathcal{V}}$
	い	き継	か、	名士	てい	れの	図		大き	印象	キャ	<u>~</u>	に
	よ	邢企		白	L V	$\nabla$	旨		à	×.	V	_	ノ